

平成 30 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■鷹山地区：7月18日（水）午後7時30分～9時 参加者数 49名

Q. 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の町の人口は約8,800人ということだが、その年齢比率はどのように考えているのか。

A. 同研究所の推計によれば、平成32年の時点で高齢化率が38.7%となり、生産年齢人口と呼ばれる15～64歳の人口は6,531人、65歳以上の人口が5,038人という数値になっている。さらに平成52年になると、生産年齢人口は3,902人、65歳以上が4,072人ということで、ほぼ1対1という割合になってしまう。また、平成52年の高齢化率は46.2%と推計されていることから、そのような状況も踏まえつつ今後10年間の計画を策定していく必要がある。

Q. 今後10～20年後には、働く世代がどのくらいで、どのような社会になっているかなど、はっきりした数字を出しておかないと今後のビジョンが見えてこないと思う。

A. 今後、日本全体で生産年齢人口が急激に減っていくことになるが、その中でも本町はその進行がはるかに著しい状況である。そのような状況の中、国全体として働き方を変えていくための取り組みが行われている。例えば、職業研修ということで、海外から多くの研修生を受け入れたり、研修期間を3年間から5年間に延長したり、職種についてもさらに幅広くなっている。しかし、ある企業では、これから労働力の確保をしていくことは非常に難しいということで、AI（人工知能）を活用した生産工場を作っていこうという取り組みも行われてきている。

また、人口が減るということは活力が失われていくということであり、生産・流通・消費が落ち込んでいくということにつながる。そのため、今後については間違いのない数字を出しながらも、町の将来に夢を持っていただける数字を提示していきながら町民の皆さんとともにまちづくりに取り組んでいきたい。

Q. 国道348号から高速道路につながる取り組みを進めているという話を聞いていたが、その進捗状況をお聞きしたい。

A. 山形市の西公園のところにスマートインターチェンジ（高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアなどから乗り降りができるように設置されたETC専用のインターチェンジ）を整備したいという考えがあり、先日も山形市長と話をさせていただいた。同所についてはNEXCO 東日本の用地であり、パーキングエリアを整備したいということで

かなりの用地をお求めになっている。しかし、山形市も地域性がそれぞれあり、上山の物産館の辺りにもスマートインターチェンジを整備し、そこに道の駅をつくりたいという話もあるようだ。そのため、具体的なスケジュールについてはお聞きできなかったが、本町や隣の朝日町は高速交通体系から取り残されている自治体であるという認識はしているの
で、今後も NEXCO 東日本や山形市への働きかけを行っていきたいと考えている。

Q. 今後、全国的に人口が減っていくとなると、都道府県レベルでもう一度道州制のような問題が出てくるだろうし、市町村においては市町村合併が国政で取りざたされてくるのではないかと思う。もしそうなった場合に、白鷹町についても合併について考えなければいけないと思うが、どのように考えているか。

A. このたび本町は米沢市と定住自立圏の協定を結ばせていただいた。これは、それぞれの自治体が連携できるものは一緒にやっという考え方であり、例えば西置賜 1 市 3 町で行なっている消防業務などが、その例である。

ただし、その中でも本町が独自の方向で決定するというまちづくりは引き続き行なっていくべきだと考えているが、人口や財政が減っていく中で同じような施設などが増えていくということは防がなければならない。

なお、市町村合併ということではなく、連携できるものは連携していくという方向で今後も進めていきたいと思っている。

Q. 平成 52 年には、生産年齢人口と 65 歳以上の人口の割合が 1 体 1 になるということなので、お年寄りが生き生きと活動できるような小さな社会（コミュニティ）づくりも考えていく必要があると思う。

A. 若者定住と同じように、現在の高齢化社会において、お年寄りの方がどのようにして生き生きとした生活を送っていくかということも永遠のテーマであると考えているので、その点も十分に考慮した次期計画にしていきたい。

Q. ぶどうを生産しているが、作っている本人たちが 60 歳を過ぎていることもあり、若い人材がほしいと思っている。しかし、なかなか若い人が集まらないため、定年を迎えている方を雇用している状況であるが、そのような状況に対して補助金などの制度はあるのか。

A. 定年を迎えてから年金を受給できる 65 歳までの期間をどのように生活していくかは非常に大切な部分であり、町としても働く場所をつくっていく必要があるということでは必死になって考えている。その中でも、シルバー人材センターの皆さんの中では、働くことについての大きな流れができていようである。要望が多く、応じられる方が少なくなっ

ているということも聞いているが、ぜひ一度ご相談いただきたい。そして、大いに60～65歳までの人を活用いただきたいと思う。そうすることによって、町にも活力が出てくるのではないかと思う。

Q. 朝一で役場に行ったところ、挨拶をしても誰も出てきてくれなかったのが、職員の対応についてしっかりしていただきたい。

A. 町民の方に不快な思いをさせてしまったことについて、職員への指導を徹底していきたい。

Q. 今回の地籍調査をするにあたり、区長登記の解消ということで進んできた経緯があるので、相続登記についての手続きをスムーズに行なえるように考えていただきたい。

A. 本来、相続登記というものは個人が行うべきであるが、非常に煩雑であるとともに山の価値があまりにも低いということで、結果的に高い費用を要することになってしまうということは承知している。そのような中でも、皆さんにできるだけ簡便に行なっていただける方法はないか、引き続き検討させていただく。

Q. ぶどうの生産者である私たちと加工業者、そして販売業者が絡んでワインがつくられているわけだが、ワインを販売していただいている方などにも私たちの圃場や年間のスケジュールなどを理解していただき、さらには観光という視点からも白鷹町を売っていきたいと考えている。そうすることで、若者にも興味を持っていただけるし、利益にもつながるのではないかと思う。また、農業振興だけでなく、観光協会や商工会と連携を図られるような仕組みを考えていただければ、さらに良いものができるのではないかと思う。

A. 販売業者の方などに対し、圃場をただ見てもらうだけでなく、収穫等の体験をしてももらえるようなツアーなども考えていきたいと思う。なお、頂戴した意見のとおり、町を売り出していくためには観光協会や商工会、小売店などとの交流も必要であると思うので、良い案があればぜひ相談いただきたい。

Q. まちづくりアンケートの結果を拝見したが、回収率の低さにがっかりした。町民の方にも訴えるべきことはしっかり訴えて協力いただき、町の多くの方々の意見の集約という形で動くことができれば、まちづくりを担う町民一人ひとりの意識の集約につながるのではないかと思う。

A. 今回のアンケートは各世帯に配布させていただいたが、残念ながら思っていたよりも

回収率が伸びなかった。今後とも、さまざまなアンケートや意見聴取の方法について工夫しながら進めていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。